

令和2年4月における会員の財務状況等

日本商品委託者保護基金

1. 会員数の状況

会員数は25社。内訳は受託会員14社、取次会員11社となっています。

2. 委託者数等の状況

委託者数は延べ81,641人で前月から1,463人増加し、建玉委託者数も10,425人で前月から354人増加となりました。また、役職員数は新年度に入り、3,912人で前月から103人増加しました。

3. 委託建玉及び預り証拠金の状況

委託建玉は506,916枚で前月から41,584枚増加し、預り証拠金も1,831億7百万円となり前月から442億44百万円増加しました。その要因は、原油に関する預り証拠金が大きく増えた会員がいたためです。なお、委託者に占める建玉委託者は12.8%となり前月から0.2ポイント増加しました。

4. 純資産額の状況

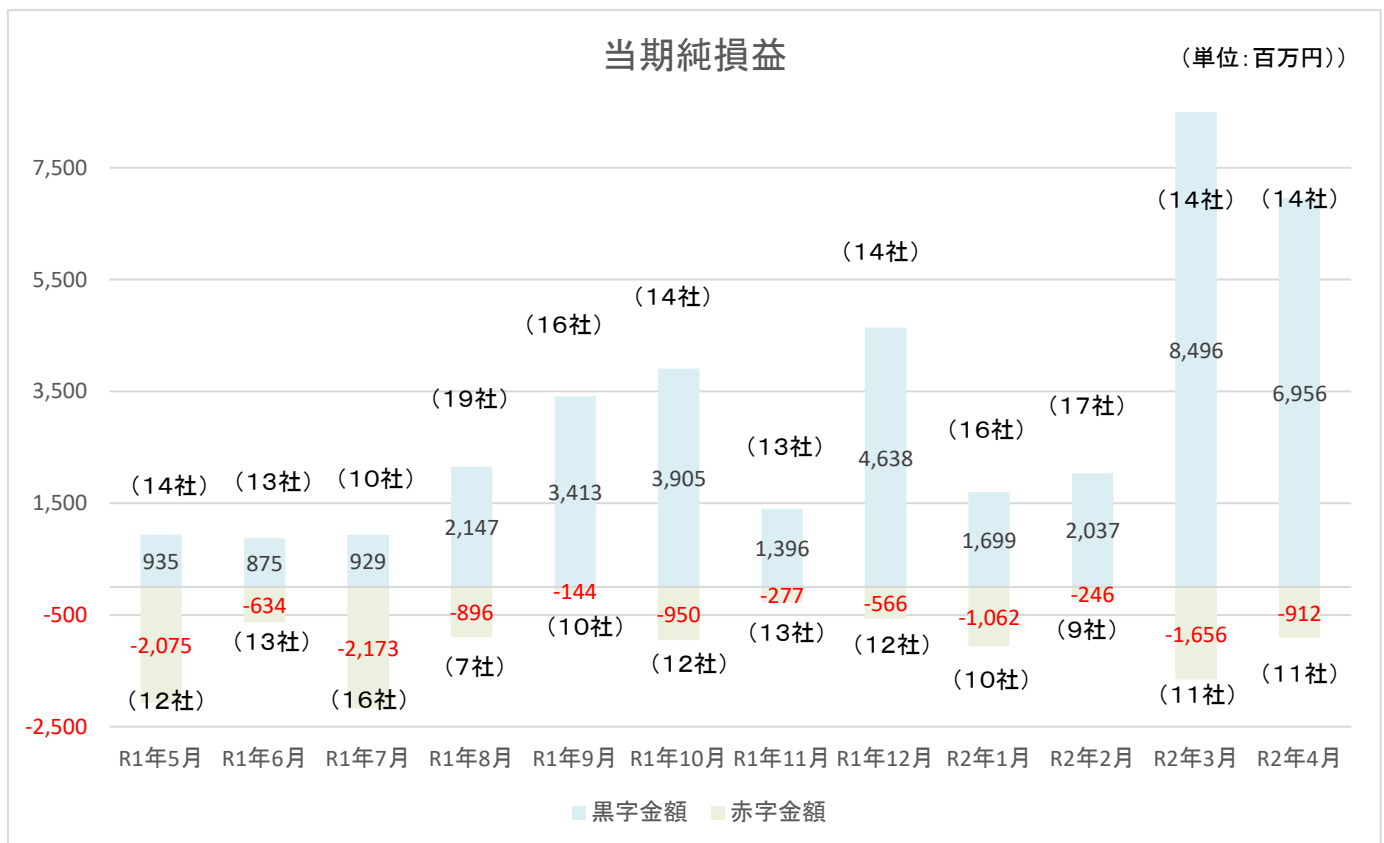
会員の純資産額は総額3,443億15百万円となり、前月から44億85百万円の増加となりました。

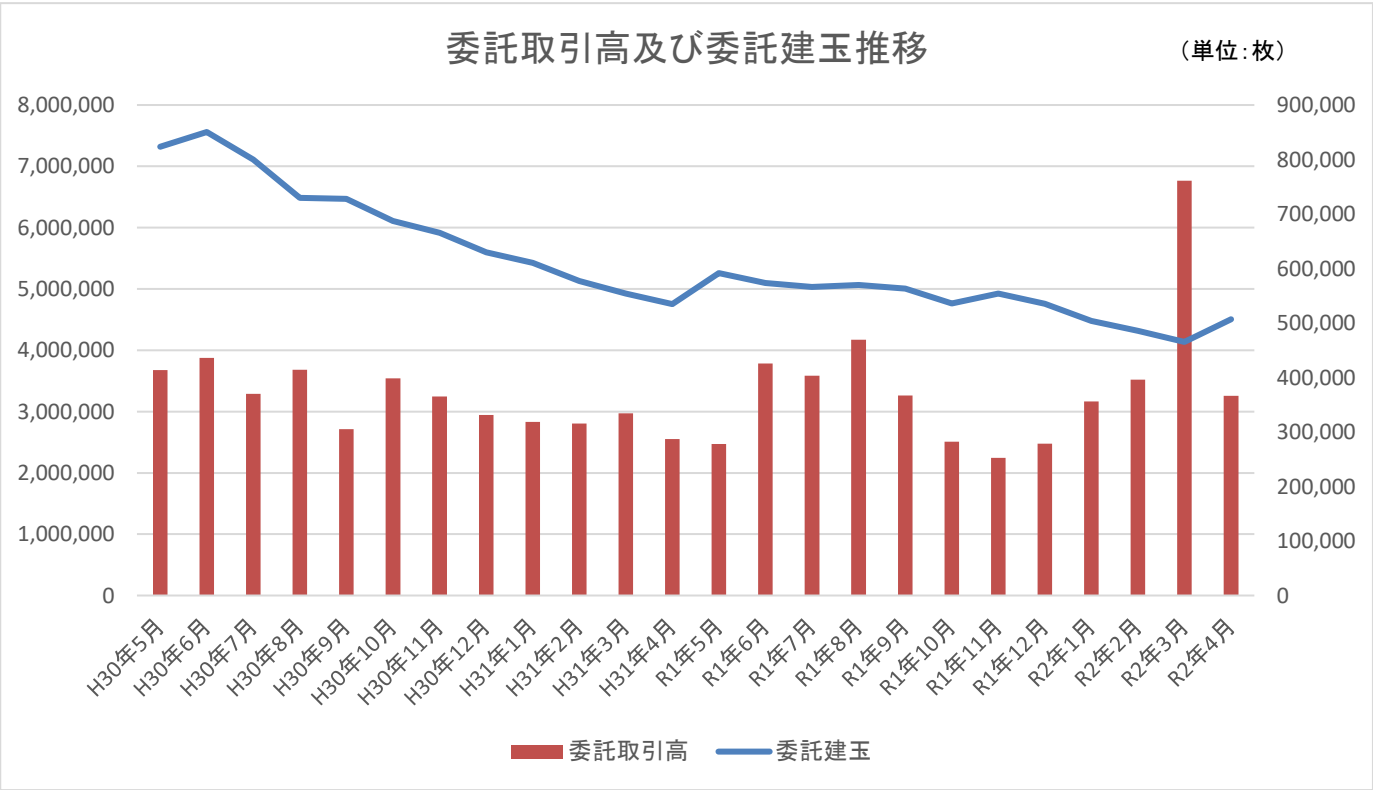
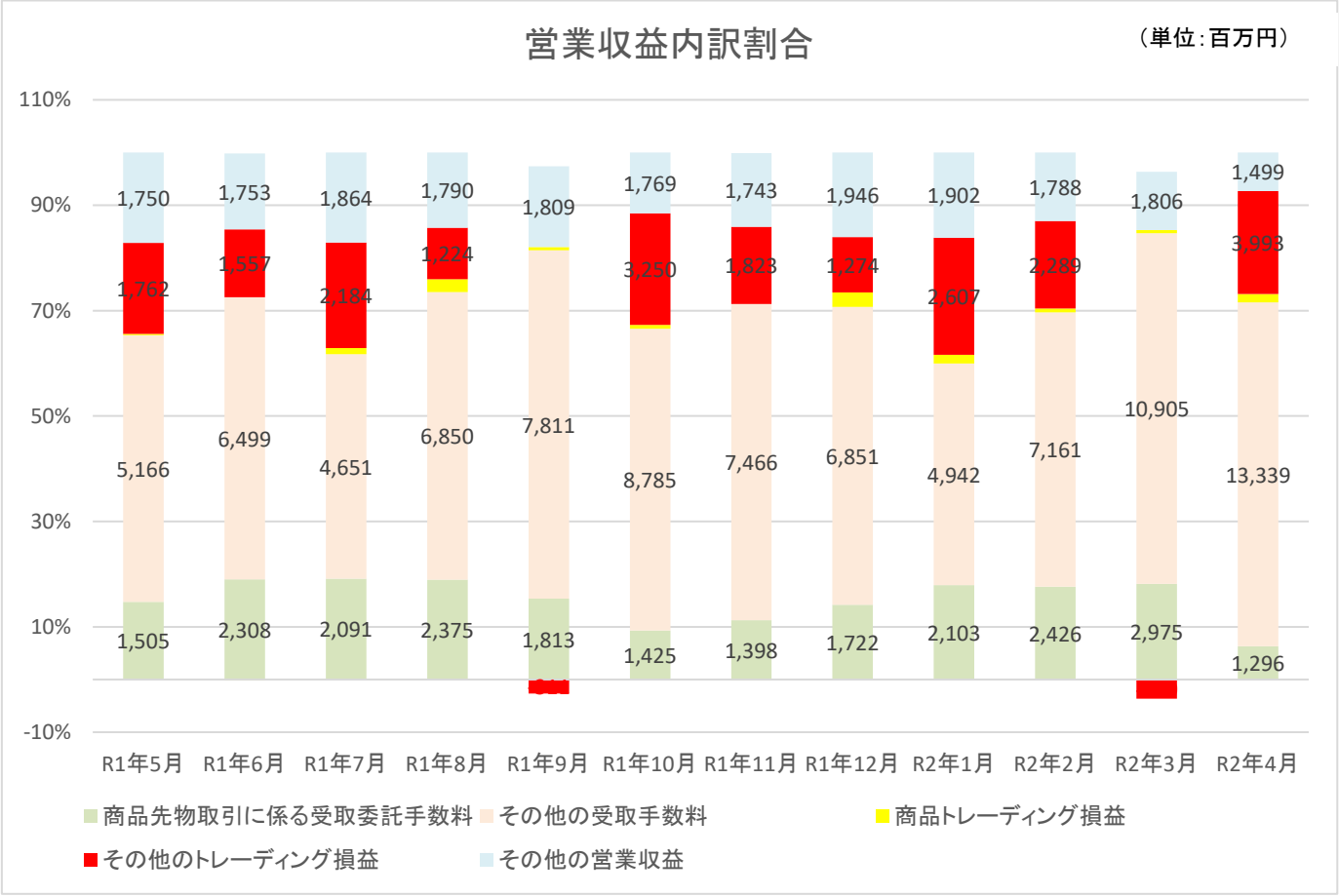
5. 損益状況

今月の当期純損益について、黒字の会社が14社、赤字の会社が11社でした。委託取引高が325万枚と、前月から大きく減少したことで「商品先物取引に係る受取委託手数料」が減少しましたが、「その他の受取手数料」及び「その他のトレーディング損益」が大きく伸びたことから、今月の純損益は60億円となりました。

6. 取引高の状況

委託取引高は、先月に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けて市場環境は不安定化しましたが、前月比51.9%減の325万枚と半減以上の落ち込みとなりました。その要因は、金標準取引（前月比268万枚（76.4%）減の83万枚）及び白金標準取引（前月比71万枚（78.9%）減の19万枚）など、貴金属取引が極端に減少したからで、相場が大きく動いた原油が前月比65万枚（71%）増の157万枚と大きく増加しても減少分を埋めきれませんでした。なお、TOCOMの上場商品ではないですが、WTI原油の当限価格が4月20日に史上初めてマイナス価格になるなど大幅に下落しました。また、大阪堂島商品取引所で4月16日に「とうもろこし50」が、4月21日に「宮城ひとめ18」及び「秋田こまち17」が新規上場しました。





以上